

敬愛短大附属幼稚園だより 12月号



教えないことが基本です



幼稚園は、はじめての学校といわれます。小学校では教科にわかれて授業を受けます。うちの幼稚園を卒園した子どもたちはそれぞれの小学校に進みます。今回は、宮大工で有名な西岡常一さんの弟子である宮大工の小川三夫さんのお話について考えます。宮大工になりたいという希望を持った若者が全国から小川さんのもとに集まり、一人前の大工を目指します。教えないことが基本だそうです。

私のところに全国から若者が弟子としてやってきます。自宅やアパートから通ってくる子どもは一人もいません。全員が同じ寮に入って生活をします。共同生活が仕事の基礎です。住み込みができない人は弟子になれません。途中でやめる若者もいます。大工の仕事がきちんとできるため、修行をします。その初めが食事作りです。新人は全員の食事作りです。1日3回のみんなの食事の準備です。家ではみそ汁も作ったことがない、ご飯をたいたことのない若者が食事を作るのです。

食事作りには、いくつかきまりがあります。その当番の若者だけが早く仕事を終えて、夕方準備をするではありません。食事の準備する時間は30分と決まっています。午後6時から夕食準備、6時30分から全員で食事です。遅くなるとみんな食べることができません。7時すぎに食事が終わり、後かたづけです。それでおわりではありません。

かたづけが終わった後もまだまだ修行が続きます。今度は明日の昼食と夕食の献立を考え、近くのスーパーに買い物にいきます。一回の予算も決まっています。買い物から帰ってくると、翌日の料理が30分でできるように下ごしらえをします。朝食はご飯とみそしるですから、あまり準備はいりませんが、昼食と夕食の準備にはかなりの時間がかかります。初めのうちは、夜中12時頃までかかります。だんだん慣れてくると早くできるようになります。下準備のあとは大工としての修行です。道具の手入れ、たとえば刃物をとぐ修行があります。のみが切れないと仕事はできません。初めの頃は寝るのが1時をすぎます。つらい修行は1年間です。

30分間でみんなの食事づくり、いくら下ごしらえをしているといっても順番をまちがえとうまくできません。新人は考えに考えて、どうすれば時間通りにできるか、心と頭をつかいます。これが大工の仕事の基礎です。相手のことを考えておいしい料理を作る心、いい建物をつくる心、共通点があります。もう一つ大切なのは物事を進めるときの段取りです。時間をかけていいものでなく、きめられた時間の中で仕事を仕上げる力をつけます。

小川さんの話にあった段取りは幼稚園の遊びの中で学びます。よく遊ぶ子どもほど段取り力がつきます。年長組の遊びをみていると、仲間と一緒に同じ目的をもって遊びます。そこでは、自分たちで役割を決め、どうすればみんなが楽しく遊べるか、みんなが満足するか、ときに話し合いをして意見の対立もあります。若者は棟梁から教えてもらうのではなく、自分で学びます。幼稚園も同じです。遊びから友達から自然から主体的に学びます。その環境を先生が作ります。(山中 護)